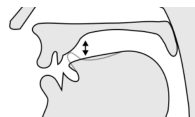
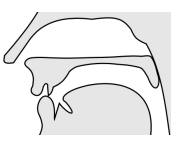
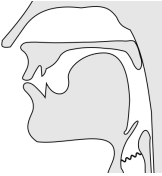


	A 両唇	B 唇歯	C 歯	D 歯茎	E 後部歯茎	F 歯茎硬口蓋	G 硬口蓋	H 軟口蓋	I 口蓋垂	J 声門
①破裂音 =閉鎖音	p パ行 b バ行 			t タテト, ティ, トゥ d ダデド, ディ, ドゥ 		※IPA の表には「歯茎硬口蓋」の欄はない。		k カ行 g ガ行 		
②鼻音	m マ行 			n ナヌネノ 			ɲ ニ, ニヤ行 	ŋ ガ鼻濁音, カガ行の前の撥音 	N 撥音 (句末, 母音前, 丁寧なン) 	
③震え音				r 下欄 [r] の代替 	左欄の図は、舌の上下動を矢印で示している					
④弾き音				ɾ ラ行 						
⑤摩擦音	ɸ フ, ファ行 β 雑なバ行 	f 左欄 [ɸ] の代替 (特に欧米系学習者) 		s サセソ, スイ z 語中のザズゼゾ, ズイ 	ʃ シ, シャ行 ʒ 語中ジ, ジャ行 ç 同左 ʒ 同左  ※上記⑤の E と F、⑥の E と F (j と ç など) は同じものと考えてよい (次頁【注】(11)参照)。	ç ヒ, ヒヤ行 	x ハヘホの (h) の代替 y ガ行鼻濁音 (ɲ) の代替で鼻音化すること多い		h ハヘホ ɦ 上記 (h) の代替となる有声音。語中などの雑なハヘホ	
⑥破擦音	※IPA の表には破擦音の欄はない。			ts ツ, ツア, ツェ, ツォ dz 語頭のザズゼゾ, ズイ 口の動きは t→s とほぼ同じ。	tʃ チ, チャ行 dʒ 語頭ジ, ジャ行 口の動きは、後ろ寄りの t→ʃ とほぼ同じ。右欄の図は、舌が歯茎後部で閉鎖し盛り上がっている=最初の一瞬を表す。	ts 同左 dz 同左	左欄 EF⑥の図: 			

	両唇 A	唇歯 B	歯 C	歯茎 D	後部歯茎 E	歯茎硬口蓋 F	硬口蓋 G	軟口蓋 H	口蓋垂 I	声門 J
㊦接近音							[j] ヤ行とイエ 	[ɰ] フ, ウィ, ウエ, ウォ 下欄 (w) から 唇の接近をな くしたもの	左欄の (ɰ) と A㊦H㊦ (w) は 同じものと思 えてよい(【注】 11)参照)。	
㊧側面接 近音と 二重調音 の接近音	[w] フ, ウィ, ウエ, ウォ 			l ラ行の自由異音(特に 語頭) ※側面接近音 				[w] =A㊦ 両唇の接近と 奥舌-軟口蓋の 接近による二 重調音。上欄 (ɰ) に唇の接 近を加えたも の		

【注】

- (1)日本語学習に関して特に考慮する必要がない単音、および外来語音としても定着度の低いものは省いた。
- (2)同一枠内の上下に IPA が書かれている場合は、上が無声、下が有声。対応する無声音がないものもある。
- (3)囲み字は日本語の標準発音における基本的な単音とされるものである。
- (4)国際音声学会の IPA 表には「破擦音」の欄はない。tʃ や dʒ などは合字である。
- (5)IPA では「歯茎硬口蓋」は別表になっているが、この表では欄を設けた。歯茎後部から硬口蓋にかけてのやや広い範囲で調音する音とされる。
- (6)両唇-軟口蓋接近音 (w) は二重調音であるため IPA では別表になっているが、この表では両唇と軟口蓋の二箇所に掲げた。
- (7)日本語のラ行子音は歯茎弾き音 [ɾ] で表すことが一般的だが、日本語母語話者の発音でも [ɾ, ɹ, ɻ, l] やこれらの中間音など様々な自由変異が現れる。
- (8)硬口蓋化音が [ɰ] をつけて表されるものは、イ段音・拗音とも省略した。また「ヒャ, ヒュ, ヒエ, ヒョ」を「ヒャ行」と呼ぶことなどは一般的ではない。
- (9)破擦音は閉鎖で始まり狭めで終わるが、検定試験では破擦音は閉鎖の瞬間を描いた声道断面図(舌が歯茎のどこかに付いている)で示される。
- (10)声道断面図の描かれ方は様々である。①閉鎖や狭めの位置 ②接触しているか ③口蓋帆の位置(鼻音か) ④舌の形 に注目して選べばよい。
- (11)以下の上段と下段は、日本語の子音にどの IPA で記述するかという違いであり、同一音素の 2 種類の異音を表すものではない。子音部のみを示す。

シ シャ, シュ, シェ, ショ	チ チャ, チュ, チェ, チョ	語頭の ジ 語頭の ジャ, ジュ, ジェ, ジョ	語中の ジ 語中の ジャ, ジュ, ジェ, ジョ	ワ ウィ, ウェ, ウォ	※現代仮名遣いには「じ/ぢ」等の書き分けがあるが、発音上の区別ではない。
ʃ	tʃ	dʒ (ɟ の有声)	ʒ (ʝ の有声)	w	
ɕ	tɕ	dʑ (tɕ の有声)	ʑ (ɕ の有声)	ɰ	